

# 事故削減を模索、忙しくてもていねいに管理

私は2009年に当法人に入職し、高齢者医療・介護に携わり10年が経ちます。現在は老健施設のリハビリ科に所属し、現場の仕事と管理をしながら、事故防止委員会の委員長も兼任しています。

超強化型である当施設は入退所が激しく、認知症専門棟では新規のご利用者に予測が難しい行動も見られます。また、どのフロアもじっくりとケアに向き合うゆとりが少ないため、このような環境下で事故再発防止は懸案事項です。

リスクマネージャーとしてどうしたら事故が減らせるのかを模索し、施設内研修での講義や、委員会での事故の振り返りをしています。企画も立て、例えば「ヒヤット川柳」を考え壁に貼ったり、危険個所のフロアマップを起こしたり、指差し呼称キャンペーンを行っています。しかし、なかなか事故は少なくならず悩ましい



あい介護老人保健施設（東京都）  
理学療法士(RM) **吉野 健**

毎日です。

そんなときに立ち返るのが、リスクマネージャー養成講座で学んだリスク管理のABC（当たり前のことをびっくりするほどちゃんとやる）です。この言葉が私の道しるべとなり、原動力となっています。

どんなに忙しくても基本に忠実に、ていねいに行う習慣があれば、たとえ事故が起きてても浅い傷ですみます。1人でも多くの職員がリスクを意識し行動に移せたときに、事故は減っていくのだと思います。

ます。

起きてしまった事故をどのように振り返り、そこから何を学ぶのか。私たちには、まだまだ伸びしろがあります。事故が1件でも少ない施設をめざし、あい老健の歴史をつないでいきたいです。

※2019年4月より法人内あい訪問看護ステーションに異動しました。

## 私の仕事 私の思い

老健施設がどんな所かよく理解せずに就職しましたが、なんとか7年目を迎えています。ここで仕事をするようになって感じたことは1人のご利用者に対応するスタッフの多さです。病院では看護師がさまざまなケアを行っていますが、老健施設はリハビリの場、生活の場であるため、介護職、リハビリ専門職、栄養士や相談員、事務職と施設の全職種がご利用者に関わっています。

一例として、褥瘡委員会の活動を紹介したいと思います。褥瘡というと看護師が観察し、処置をするものという認識があります。しかしご利用者に接するさまざまな機会に、丁寧な観察をしていくことは重要で、できるだけ多くの職種で関わるようになりました。

特に、介護スタッフが、オムツ交換時に積極的に観察をし必要に応じて報

告をすることは、褥瘡の早期発見と対処につながりました。発生件数が減少し、軽度の段階で治癒するようになりました。さらに介護スタッフは、自主的にリハビリスタッフにポジショニングの相談をもちかかっています。

また栄養士は、褥瘡のご利用者の食事摂取状況をフロアにきて確認し、摂取不足であれば高カロリー食に変更するなどの見直しをしています。

褥瘡は、早期発見と全身状態の管理、改善が第一なので、多職種で取り組むことが有効なケアにつながると思います。

このように全員でご利用者に関わり、支援していけるところが老健施設の良さだと思います。これからも各職種のスタッフとコミュニケーションを密にとりながら、ご利用者に関わっていきたいです。



ひかりケアホーム（福井県）  
にし の ゆかり  
看護師 **西野弓佳里**

## 多職種で取り組む褥瘡予防